

子どもの音楽あそびとその指導に関する一考察

平松 愛子

A Study of Musical Play for Children and the Teaching Method

Aiko Hiramatsu

Abstract

In April 2011, the name of nurse training course 'Basic Skill' changes 'Nature Expression Technique'. On this time, I believe that I need to reconsider the contents of classes in 'Basic Skill' and 'Nature Contents Expression'.

First, the course 'Basic Skill' has been consisted of classes of 'Piano I', 'Piano II' and 'Music I', 'Music II'.

In the classes of 'Piano I', 'Piano II', students learn piano skills. In the class of 'Music I', students learn to singing improve their skills of reading music scores, and in the class of 'Music II', students learn ensemble skills for instruments.

I have been thinking that in the course of 'Basic Skill', we have to more focus on teaching 'Musical Play' such as play with hands and play with fingers, instead of focusing on improving students fundamental music skills, so that our students will be able to provide children with better education in the future.

key words : Nature Expression Technique, Nature Contents Expression, Musical Play,

はじめに

平成 23 年 4 月より、保育士養成科目である「基礎技能」が、「保育の表現技術」という名称に変更される。筆者は、これを機に「基礎技能」及び保育内容「表現」の授業内容について再検討する必要があると考える。

現カリキュラムで行っている「基礎技能」は、1 年次において「ピアノ I」及び「音楽 I」を、2 年次において「ピアノ II」及び「音楽 II」を授業展開している。そして、「ピアノ I」及び「ピアノ II」において、ピアノ演奏技術の習得を目指している。また、「音楽 I」において、読譜力を高めるための楽典及び発声法をはじめとした声楽について学ぶ。さらに、「音楽 II」において、簡易楽器の奏法をはじめとした器楽合奏を学ぶことになっている。

本来、「基礎技能」が持つ授業内容の性格は、手あそびや指あそびをはじめとする音楽的なあそびにも触れなければならない。しかし、現カリキュラムでは、歌やピアノ、器楽合奏など技術面を向上させることに留まっている。そして、手あそび・指あそびをはじめとする音楽的なあそびを、保育内容「表現」として捉えている「表現Ⅱ」だけに組み込んでいる状況である。そこで、保育内容「表現」を授業展開するにあたり、「保育の表現技術」（現：基礎技能）につながる授業内容とはどのようなものであるか、研究していかなければならないと考える。

I 研究目的

本研究は、「保育の内容・方法の理解に関する科目」及び「教育課程及び指導法に関する科目」として設置されている「表現Ⅱ」において授業展開している内容を探るものである。そして、手あそび・指あそびから、子どもの音楽活動とされる「うたう活動」「きく活動」「ひく活動」「うごく活動」「つくる活動」を分析し、今後の「保育の表現技術」の授業展開につなぐことを目的としている。

II 研究概要

1 研究対象及び時期

平成 22 年度前期に「表現Ⅱ」※1 を受講した本学保育科 1 年生 65 名を対象とした。

2 研究方法

「表現Ⅱ」の授業内で扱った音楽あそびの中から数曲を取り上げ、それらの音楽的な表現方法を探る。そして、学生とともに子どもへの指導に焦点をあてた。

3 対象曲目

- 1) 「ちょちちょちあわわ」（わらべうた・あやしうた）
- 2) 「あくしゅでこんにちは」（作詞：まどみちお・作曲：渡辺 茂）
- 3) 「コロコロたまご」（作詞・作曲者不詳）
- 4) 「バスごっこ」（作詞：香山美子・作曲：湯山 昭）

※1 「表現Ⅱ」は本学において幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、保育士資格取得のための選択科目となっている

III 研究内容



1) 環境設定

子どもと向きあったり、抱いたり膝にのせたりしてゆっくり遊ぶ。

2) あそび方

- ① ちょちちょち : 子どもに手を添え手拍子を4回打つ。
- ② あわわ : 口に手を3回あてる。
- ③ かいぐりかいぐり : かいぐりを1回もしくは2回する。
- ④ とつとのめ : リズムに合わせて手のひらを人さし指でつつく。
- ⑤ おつむてんてん : 両手を頭にもっていき2回打つ。
- ⑥ ひじぼんぼん : ひじを左右交互に打つ。

3) 展開あそび

「ひじぼんぼん」の部分を「鼻つんつん」「肩とんとん」「おなかぼんぼん」「ひざとんとん」などに変えて遊ぶ。

2 「あくしゅでこんにちは」(作詞:まどみちお・作曲:渡辺 茂)

The image shows a musical score for the song 'あくしゅでこんにちは'. It consists of two staves of music in G major and 2/4 time. The lyrics are written below the notes. The first staff contains the first six measures, and the second staff contains the remaining six measures, starting with a measure rest.

1. てくてくてくてくあるいてきて あくしゅで
2. もにゃもにゃもにゃもにゃおはなしして あくしゅで

7
こ ぎ げん いか が 二
き よ う な は ら ま た ま た あ し が た

1) 環境設定

両手を広げ両手の親指を立て、指どうしが話をするように遊ぶ。また、他の指でも遊ぶ。

2) あそび方

1 番

- ① てくてくてくてくあるいてきて : 親指を動かしながら、胸の前にもってくる。
- ② あくしゅで : 指を合わせる。
- ③ こんにちは : 両指が挨拶するように指を曲げる。
- ④ ごきげんいかが : 指を打ち合わせる。

2 番

- ⑤ もにゃもにゃもにゃもにゃおはなしして : 指どうしが話しをしているように、指を小刻みに震わせる。
- ⑥ あくしゅで : 指を合わせる。
- ⑦ さようなら : 両指が挨拶するように指を曲げる。
- ⑧ またまたあした : 手を振るように指を動かし、両腕を左右に離していく。

3) 展開あそび

二人組みを作り、少し離れた位置に向かい合って立つ。そして、歌いながら遊ぶ。また、相手を替えることによって様々な人とのスキンシップを楽しむ。

1 番

- ① てくてくてくてくあるいてきて：拍に合わせて、互いに歩み寄ってくる。
- ② あくしゅで ：互いの目を見て握手する。
- ③ こんにちは ：握手した手を軽く持ち上げながら会釈する。
- ④ ごきげんいかが ：互いの手を取り身体をゆらす。

2 番

- ⑤ もにゃもにゃもにゃもにゃおはなしして：両手の甲を口元にあて、指を動かす。
- ⑥ あくしゅで ：互いの目を見て握手する。
- ⑦ さようなら ：握手したまま、もう一方の手を振る。
- ⑧ またまたあした ：両手を左右に振りながら、離れていく。

3 「コロコロたまご」（作詞・作曲者不詳）

The image shows a musical score for the song "Korokoro Tamago". It consists of two staves of music in G major (one sharp) and 4/4 time. The lyrics are written below the notes. The first staff covers measures 1-5, and the second staff covers measures 6-10. There are three numbered versions of the lyrics provided for the first line.

1. コロコロたまごは おりこうさん コロコロして
 2. ピョピョひよこは おりこうさん ピョピョして
 3. コロコロピョ ひよこは おりこうさん コケッコがない

た た ら ら ひよこになっちゃった た た コケッコ コー あさですよ
 た た ら ら コケッコになっちゃった た た

1) 環境設定

子どもと向いあって遊ぶ。小さい子どもと遊ぶ場合は、膝の上のにせる。

2) あそび方

1 番

- ① コロコロたまごは：かいぐりを2・3回する。
- ② おりこうさん ：グーにした左手を、右手でなでる。
- ③ コロコロしてたら：かいぐりを2・3回する。
- ④ ひよこになっちゃった：親指と人指しを合わせ、くちばしに見立てる。両手のくちばしを開閉させる。

2 番

- ⑤ ピョピョひよこは：親指と人指しを合わせ、くちばしに見立てる。両方のくちばしを開閉させる。
- ⑥ おりこうさん ：ひよこの手の形を保った左手を、右手でなでる。
- ⑦ ピョピョしてたら：親指と人指しを合わせ、くちばしに見立てる。両方のくちばしを開閉させる。
- ⑧ コケッコになっちゃった：親指の先にその他の4本の指の先をつけ、大きなくちばし

- ④ おわりのひとは : みんなで列の最後の人を見る。
 - ⑤ ポケットに : 列の最後の方は、ポケットに切符を入れるしぐさをする。
- 2番
- ⑥ おおがたバスにのってます : 両手で車のハンドルを動かし運転しているしぐさをする。
 - ⑦ いろんなどがみえるので : 手を額にあて、キョロキョロ周りを見るしぐさをする。
 - ⑧ よこむいたアッ したむいたアッ うえむいたアッ うしろむいたアッ :
歌詞に合わせ、横・上・下・後ろを向く。
 - ⑨ うしろのひとは : みんなで列の最後の人を見る。
 - ⑩ ねむった : 列の最後の方は、眠ったふりをする。

3番

- ⑪ おおがたバスにのってます : 両手で車のハンドルを動かし運転しているしぐさをする。
- ⑫ だんだんみちがわるいので : 身体を左右に揺らす。
- ⑬ ごつつんこドン : 「ドン」の時に、となりの人と軽くぶつかる。
- ⑭ おしくらまんじゅう : となりの人と腕を組む。
- ⑮ ギュッギュッギュッ : となりの人と身体を寄せ合い、押し合う。

3) 展開あそび

1人のバスからはじめ、歌の最後にジャンケンをする。勝った人の後ろに負けた人が付き、2番へと続く。そして、何度も繰り返すことによって、大きな輪になる。

IV 考察

「うたう活動」としてこれらの曲目を捉えた場合、「ちょちちょちあわわ」は、わらべうたに分類されるため、西洋音楽の12音階に合わせるのではなく、音程は定まりにくいものであるが、日本音階に合わせたものになる。そこで、子どもに語りかけるように楽しんで歌うということが大切であろう。「あくしゅでこんにちは」では、西洋音楽の正しい音程で歌うことを前提とする。そして、歌詞の中に出てくる「てくてく」や「もにゃもにゃ」の発音については、子音の発音が大切になるであろう。「コロコロたまご」では、歌いだしに出てくる「長二度」及び「短二度」の音程が定まりにくいので、正しい音程で歌うことに気をつけるだけでなく、「コロコロたまごはおりこうさん」までの歌詞を1つに捉え、話しかけるように歌うことが大切であろう。また、「おりこうさん」の「ん」の発音、及び、「コロコロ」「ピヨピヨ」「コケッコ」など、擬音に出てくる子音の発音を大切にしなければならないであろう。「バスごっこ」では、「わたしてね」の部分に出てくる「へ長調のIの和音」が不安定になりやすいため、気をつけて歌わねばならないであろう。さらに、「おとなりへハイ」の「ハイ」の部分、歌っている子どもの気持ちが一いつになることや、元気に発声することが大切であろう。

「きく活動」としてこれらの曲目を捉えた場合、「ちょちちょちあわわ」は、子どもと向き合いながら遊ぶため、お互いの表情を確かめ合い、歌声を聴き合うことが大切であろう。「あ

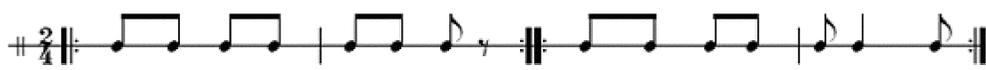
くしゅでこんにちは」においても、互いが向き合っていることから、互いの声を聴くことが大切であろう。「コロコロたまご」では、展開あそびとして3番を歌い終わった後に「コケッコーあさですよ」と掛け声を入れる。そこで、周りの元気な声を聴き合うことが大切であろう。「バスごっこ」では、「おとなりへハイ」の部分が4回繰り返される。そこで、全員の発声におけるテンションが揃っているかを聴き合うことが大切であろう。

「ひく活動」としてこれらの曲目を捉えた場合、保育者（学生）が伴奏を弾く際の留意点について特記したい。まず、「ちょちょちあわわ」では、イ短調の1点イ音を始めにならし、音程を確認することはせず、子どもと一緒に遊ぶ保育者の音程感に任せることが大切であろう。「あくしゅでこんにちは」では、歌い始めたテンポと歌い終わりのテンポが揃うように、安定したテンポ感を身に付けることが大切であろう。「コロコロたまご」では「ちょちょちあわわ」と同様に、音程を確認することはせず、子どもと一緒に遊ぶ保育者の音程感に任せることが大切であろう。「バスごっこ」では、歌い手の気持が高揚するように、リズムに乗って伴奏することが大切であろう。そして、伴奏が歌を引っぱる形になるのではなく、伴奏者も歌い手も同じテンポ感やリズム感を備えることが、楽しむことへの前提条件となるであろう。

「うごく活動」としてこれらの曲目を捉えた場合、「ちょちょちあわわ」では、ひとつひとつの動きにメリハリを持たせ、明確に行うことが大切であろう。「あくしゅでこんにちは」では、親指を曲げたり打ち合わせたりする際に、人が実際に行動しているかのように模倣することが大切であろう。「コロコロたまご」では、たまごからにわとりへと成長していく課程を表現することから、曲が進むごとに動作の大きくするよう心掛けたいものである。「バスごっこ」では、1番「おわりのひと」及び2番「うしろのひと」の部分に対する動きを子ども自身が考え、みんなで同じ動作をすることによって、人に注目することの面白さに気づかせることが大切であろう。

「つくる活動」としてこれらの曲目を捉えた場合、全曲において、新しい展開あそびを創ることが大切となるであろう。そして、子どもの発達段階に合わせて、複数のあそびを連携させることによって、音楽に対する苦手意識や、嫌悪感を払拭することにつながるであろう。「ちょちょちあわわ」では、「あやしうた」として子どもとのスキンシップを計りことが大切であろう。「ゆらゆらタンタン」では、子どもの顔の部位を取り入れ、繰り返しのリズムで遊ぶことの面白さを体験することが出来るであろう。「あくしゅでこんにちは」で指を人に見立てたあそびを取り入れ、その後、「こんなことができますか」へ発展させることによって、模倣あそびの楽しさに気付くであろう。「コロコロたまご」では、成長していく過程を題材にした指あそびから、「5つのメロンパン」へ発展させることによって、数を数えることを取り入れられるであろう。「バスごっこ」では、ゲーム感覚で楽しむ歌あそびに触れ、「もうじゅうがりにいこうよ」へ発展させることによって、全身を使い表現する歌あそびやリズムあそびへとつながるであろう。そして、発達段階に応じた歌あそびやリズムあそびを経験することによって、音楽の創造性や独創性にも触れることができるであろう。

「もうじゅうがりにいこうよ」(作詞：米田和正・アメリカ民謡)



 A.どん どこ どん どこ どん どこ どん A.もう じゅう がり に い こう よ
 B.どん どこ どん どこ どん どこ どん B.もう じゅう がり に い こう よ



 A.ライ オン なん て こわ くない A.だい じゃ なん て こわ くない
 B.ライ オン なん て こわ くない B.だい じゃ なん て こわ くない



 A.ゴリ ラ だ っ て こわ くない A.て っ ぼう だ っ て も っ て る もん
 B.ゴリ ラ だ っ て こわ くない B.て っ ぼう だ っ て も っ て る もん



 A.や り だ っ て も っ て る もん ア ッ 休 例：
 B.や り だ っ て も っ て る もん 休 ア ッ A.バンダ